

なしの栽培

月	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12																																																																																												
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																																																																										
主な作業	せん定			誘引			△ 催芽			☼ 開花人工受粉			予備摘果			仕上げ摘果			新梢管理			補正摘果			収穫始期			秋肥(幸水)			秋肥(あきづき)			収穫終期			深土壌耕改良			基肥			せん定																																																																																			
作業のポイント	<p>1.品種 幸水(8月中～9月上旬)、豊水(9月上～下旬) 0)は収穫期 あきづき(9月中～10月上旬)、新高(9月下～10月中旬) につこり(10月中旬～11月上旬) 品種構成は幸水35%、豊水35%、につこり10%、その他20%とする。</p> <p>2.植付け 栽植様式 当初3.5m、間伐後7m。 植穴 直径80cm、深さ60cmの植え穴を掘り、1穴当たり完熟堆肥20kg、よりん1.5kgを土と良く混合して埋め戻す。 植付け 11月または3月に植付ける。植付け後1樹当たり高度化成を300g施し、苗木の先端は地上約1.2mに切り返す。</p> <p>3.栽培管理 人工受粉 10a当たりの必要花粉量は生药で200cc、粗花粉(药殻つき花粉)で約60ccである。採取するのは開花直前の蕾が最も良いが、切り枝を水挿しして、ビニールハウスで開花を促進させて採取しても良い。晩生品種には、貯蔵花粉を用いると良い。</p> <p>採取した蕾は直ちに药取り機にかけて药を精選し、24～25℃で開药する。この時、30℃以上には絶対しない。開药した花粉は粗花粉のまま50ccくらいに分けてパラフィン紙に包み、乾燥剤を入れた容器に密閉し、冷凍庫で保存する。花粉の発芽率が80%以上なら粗花粉と増量剤の比率を1対4に、70～80%なら1対3に、50～60%なら1対2に、40%～50%なら1対1に増量してさしつかえない。ただし、受粉時の気温が20℃以下のときは増量率を低くする。</p> <p>50%開花した頃から2～4番果をねらって1果50～100gに受粉する。短果枝主体の品種は1回で良いが、幸水のように長果枝を多く使用する品種では、満開2～3日後に長果枝を主体にもう1度行う。</p> <p>ナンは自家不親和と同時に、につこり×かおり、かおり×につこり、幸水×多摩、あきづき×筑水、筑水×あきづきなどは交配不親和なので注意する。</p> <p>摘果 摘果は予備摘果、仕上げ摘果、補正摘果の3回に分けて実施する。予備摘果では2～4番果の中から果梗が大きく長く发育し、形状の良い果実を1果1つに1果残す。仕上げ摘果では小果、変形果、傷病果を重点に摘果し、予定着果数の10%増にする。補正摘果は幸水の裂果終了後(幸水豊水・あきづき:7月中～8月上旬、新高・につこり:8月下旬)に行い、小果、変形果、軸折れ果を摘除して予定着果数にする。成園10a当たりの基準着果数は幸水で8,000～10,000果、豊水・あきづきで10,000～11,000果、につこりで5,000～6,000果である。</p> <p>新梢管理 6月下～7月上旬に、混んでいる部分の新梢の間引きと誘引を行う。えき花芽着生を増加させるため、予備枝から発生した新梢は必ず誘引する。</p> <p>4.整枝せん定 主枝・亜主枝の扱い 主幹の分岐部の高さは約1.2mとし、主枝は4本で、永久樹は棚線に対角線方向に配置する。亜主枝間隔は幸水で1.8～2m、その他の品種では1.5～1.8mとする。主枝、亜主枝の先端は常に強く維持するように努める。樹冠拡大中は1/2程度に切り返して斜め上方に誘引し、樹冠拡大が終了したら先端を棚面から30cmほど立てて、強い新梢が発生するようにする。</p> <p>側枝 側枝は棚面に30～40cm間隔に配置する。幸水では2～3年、他の品種では3～4年で側枝を更新し、樹全体の中で幸水は1年枝(長果枝)を1/2、2～3年枝を1/2、他の品種は1年枝、2年枝、3～4年枝がそれぞれ1/3ずつとなるようにする。</p> <p>予備枝 樹幹とともに幸水はえき花芽が着きにくくなるので、予備枝を配置する。予備枝は太さ8mm以上の新梢を1/2に切り返し、斜め上方45°に誘引しておく。</p> <p>5.施肥 成木の施肥量は肥料成分で窒素20kg、リン酸13kg、カリ18kgで、窒素とカリは基肥として全体の80%、礼肥として20%を施肥し、リン酸は全量を基肥として施す。なお、晩生品種は全量基肥とし、追肥は施用しない。 (注)堆肥を施用した場合は、堆肥分のN成分量を減肥する。</p> <p>施肥基準例 (年間肥料成分kg)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>樹齢</th> <th>種類</th> <th>基肥</th> <th>追肥</th> <th>秋肥</th> <th>N</th> <th>P2O5</th> <th>K2O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">2～3年</td> <td>BB有機なし専用</td> <td>35</td> <td></td> <td></td> <td>3.5</td> <td>3.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>BBNK606号</td> <td></td> <td>10</td> <td></td> <td>1.6</td> <td>—</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4～5年</td> <td>BB有機なし専用</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> <td>8.0</td> <td>8.0</td> <td>5.6</td> </tr> <tr> <td>BBNK606号</td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>1.6</td> <td></td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6～7年</td> <td>BB有機なし専用</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td>10.0</td> <td>10.0</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td>BBNK606号</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>3.2</td> <td></td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8年以上</td> <td>BB有機なし専用</td> <td>150</td> <td></td> <td></td> <td>15.0</td> <td>15.0</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td>BBNK606号</td> <td></td> <td></td> <td>30</td> <td>4.8</td> <td></td> <td>4.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>基肥は11月下～12月上旬に秋肥は幸水以前の早生品種は収穫直後に、それ以後の品種は9月下旬に行い、追肥は5月下～6月上旬に行う。</p> <p>6.病虫害防除 (平成19年5月現在) 適正使用基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病虫害</th> <th>使用農薬名</th> <th>適正使用基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">赤星病</td> <td>サニバー</td> <td>600～800倍・3日前/5回</td> </tr> <tr> <td>バイコラール水和剤</td> <td>2500～5000倍・30日前/3回</td> </tr> <tr> <td>ルビゲン水和剤</td> <td>3000～4000倍・21日前/3回</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">黒星病</td> <td>チオノックフロアブル</td> <td>なし黒星500倍 収30前/5回</td> </tr> <tr> <td>キノドールフロアブル</td> <td>1000倍・3日前/9回</td> </tr> <tr> <td>デランフロアブル</td> <td>1000倍・60日前/4回</td> </tr> <tr> <td>アントラコール顆粒水和剤</td> <td>500倍・45日前/4回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オキシラン水和剤</td> <td>500～600倍・7日前/9回</td> </tr> </tbody> </table>																																				樹齢	種類	基肥	追肥	秋肥	N	P2O5	K2O	2～3年	BB有機なし専用	35			3.5	3.5	2.5	BBNK606号		10		1.6	—	1.6	4～5年	BB有機なし専用	80			8.0	8.0	5.6	BBNK606号			10	1.6		1.6	6～7年	BB有機なし専用	100			10.0	10.0	7.0	BBNK606号			20	3.2		3.2	8年以上	BB有機なし専用	150			15.0	15.0	10.5	BBNK606号			30	4.8		4.8	対象病虫害	使用農薬名	適正使用基準	赤星病	サニバー	600～800倍・3日前/5回	バイコラール水和剤	2500～5000倍・30日前/3回	ルビゲン水和剤	3000～4000倍・21日前/3回	黒星病	チオノックフロアブル	なし黒星500倍 収30前/5回	キノドールフロアブル	1000倍・3日前/9回	デランフロアブル	1000倍・60日前/4回	アントラコール顆粒水和剤	500倍・45日前/4回		オキシラン水和剤	500～600倍・7日前/9回
樹齢	種類	基肥	追肥	秋肥	N	P2O5	K2O																																																																																																																							
2～3年	BB有機なし専用	35			3.5	3.5	2.5																																																																																																																							
	BBNK606号		10		1.6	—	1.6																																																																																																																							
4～5年	BB有機なし専用	80			8.0	8.0	5.6																																																																																																																							
	BBNK606号			10	1.6		1.6																																																																																																																							
6～7年	BB有機なし専用	100			10.0	10.0	7.0																																																																																																																							
	BBNK606号			20	3.2		3.2																																																																																																																							
8年以上	BB有機なし専用	150			15.0	15.0	10.5																																																																																																																							
	BBNK606号			30	4.8		4.8																																																																																																																							
対象病虫害	使用農薬名	適正使用基準																																																																																																																												
赤星病	サニバー	600～800倍・3日前/5回																																																																																																																												
	バイコラール水和剤	2500～5000倍・30日前/3回																																																																																																																												
	ルビゲン水和剤	3000～4000倍・21日前/3回																																																																																																																												
黒星病	チオノックフロアブル	なし黒星500倍 収30前/5回																																																																																																																												
	キノドールフロアブル	1000倍・3日前/9回																																																																																																																												
	デランフロアブル	1000倍・60日前/4回																																																																																																																												
	アントラコール顆粒水和剤	500倍・45日前/4回																																																																																																																												
	オキシラン水和剤	500～600倍・7日前/9回																																																																																																																												

対象病害虫	使用農薬名	適正使用基準
黒星病	バイコラール水和剤	2500～5000倍・30日前/3回
胴枯病	トップジンMペースト	原液・剪定整枝時及び病患部削り取り直後／塗布は3回
	パッチレート	原液・剪定時及び病患部削り取り直後／—
輪紋病	オキシラン水和剤	500～600倍・7日前/9回
	キャブレート水和剤	500～600倍・7日前/6回
	ストロビドドライブアブル	2000～3000倍・前日/3回
ハマキムシ類	ダイアジノン水和剤34	1000～1500倍・14日前/6回
	アタブロンSC	3000倍・21日前/4回
シンクイムシ類	デミリン水和剤	2000～4000倍・30日前/3回
	ノーモルト乳剤	1000～2000倍・前日/2回
	スタークル顆粒水溶液	2000倍・前/3回
アブラムシ類	リンナツクル水和剤	600～1000倍・45日前/3回
	ダントツ水溶液	2000～4000倍・前/3回
	バリアード顆粒水和剤	4000倍・7日前/3回
	アドマイヤー顆粒水和剤	10000倍・3日前/2回
ハダニ類	オサダンフロアブル	2000倍・7日前/2回
	マイトコーネフロアブル	1000～1500倍・前日/1回
	パロックフロアブル	2000倍・14日前/2回
	コロマイト水和剤	2000倍・前/2回
ニセサビダニ	オサダンフロアブル	2000倍・7日前/2回
	コロマイト乳剤	1000倍・前日/2回
カメムシ類	スミチオン水和剤40	800～1000倍・21日前/6回(無銭)
	スタークル顆粒水溶液	2000倍・前/3回
	MR.ジョーカー水和剤	2000倍・14日前/2回
クワコナカイガラムシ	アルタメールフロアブル	40倍・休眠期/9回
	マシシ油乳剤95	16～24倍・—/なし

(平成19年5月現在)

- 性フェロモンの使用 ナシヒメシンクイ・モモシンクイガ・リンゴコカクモンハマキを対象に、コンプューザーNを設置する。
- 使用方法 5月中旬までに直射日光の当たらない場所に巻きつけるか、又は挟み込み設置する。
使用量は150～200本/10aだが、2割程度は圃の周辺部に設置すると効果的。
- 注意事項 (1) 小面積のは場、急傾斜地、風の強い地域では効果が劣る。
(2) 傾斜のあるほ場では斜面上部に多く設置する。
(3) 対象害虫の第一回成虫発生前に設置する。ただし、

- 残効期間に注意し、必要に応じて追加設置する。
- (4) 本剤は5℃程度の低温で保存し、使用前に開封し、開封したものは使い切る。
- (5) 対象以外の害虫には効果がないので注意する。
- (6) 害虫多発年や圃の周辺に山林や放任圃がある場合、十分な防除効果が得られない場合がある。
- ◎農薬の使用回数は、成分ごとに総使用回数が制限されているので、注意する。また、3つ以上の成分を含む剤もあるので、特に注意する。
- 薬剤によっては、使用時期、混用により薬害を生じる場合があるので、注意する。

指導メモ